

グローベン株式会社

営業活動における報告業務や顧客情報の管理が煩雑で有効活用できていない 入力の簡素化による業務効率化や顧客情報をスムーズに共有できる仕組みが必要

グローベン株式会社 実証結果【1/4】

企業概要

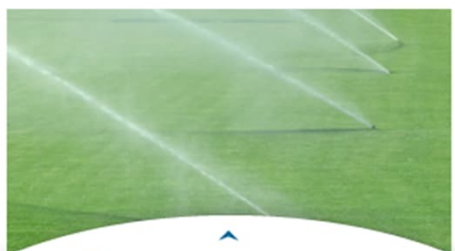
- 企業名
グローベン株式会社（愛知県名古屋市）
- 社長
服部 吉剛
- 概要
 - 自動散水システム、雨水再利用、ビオトープなどの池や噴水で、水と緑と暮らしの調和を目指し、緑化、環境保全に向けての製品や技術を提供
 - ソリューションのためのシステム開発に取り組む
 - 従業員数は約55名

デジタル化推進の背景

- 営業行動管理における日報の入力、営業担当者の投入工数の集計等を個人ごとに手作業で行っており、煩雑化している
- 得意先情報等の顧客情報が社内で共有できておらず、業務でうまく活用できていない

— 庭にもっと快適を —

グローベン



ウォーターシステム
水と緑と暮らしの調和



人工製品
AERU
ひとの、暮らしに、あえる。

導入ツール



- 「Excel読み込み」や「ドラッグ&ドロップ」で簡単にシステム構築ができる業務改善ツール
- 顧客管理案件や日報など幅広い用途で使用可能で、リアルタイムでの共有、情報の一元化が可能

営業活動入力や顧客情報の共有をクラウド上で完結して営業業務の効率化を実現するための方法を確認できた

グローベン株式会社 実証結果【2/4】

モデル実証を通じて解決を目指した課題

日報報告業務の効率化

- 毎日日報を報告しているが、分析可能なデータになっておらず工数集計等の活用ができず、非効率だと感じている

顧客情報の一元管理

- 得意先情報や営業活動における関係構築先など、顧客情報が社内でうまく共有できておらず、活かしきれっていない

課題解決に向けた取組内容

営業行動管理のクラウド化

- kintoneでクラウド上に営業活動の報告フォーマットを作成することで、スマートフォンから手軽に入力・作成できるようになり、集計も容易にできることが確認できた

社内システムとのデータ連携

- 基幹システムの顧客情報をダウンロードしkintoneに展開した上で活用可能なことを確認できた

現在使用している専用業務ツールとkintoneの得手不得手が明確になり、今後の社内デジタル化の方向性が明確になった

グローベン株式会社 実証結果【3/4】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

社内データ内容の一元化が難しい

- 例えば顧客マスタにすべき情報についても、基幹システムと顧客管理ツール（Sansan）では完全一致しておらず、どちらのデータが正のデータか個別確認する必要があるなど、kintoneで一元化する以前に、鮮度の違う類似データを持ったツールのデータはどうしていくべきかを整理することが難しい。これについては、今年度方針を定め整理していく予定

専用ツールの壁が厚い

- 入力・表示すべき項目の取り扱いだけでいえばkintoneでもカバーできる領域は大きいですが、各業務専用ツールと比べると機能・操作性で劣っており、現在使用しているツールを置き換えることの必要性が十分とは言えない。
これについては、現在使用しているツールを活用しつつデータ連携で一元化を目指すもの、現在使用しているツールを改廃し違うツールで処理できるようにするもの、現在デジタル化されていないが、DX推進の観点からデジタル化すべきデータを処理するためにツールを導入するもの等切り分けた上で、必要性を踏まえて取捨選択することで、専用ツールと汎用ツールを組み合わせしていく方針

実証体制

全体統括
社長 服部氏
実証統括
取締役 安藤氏
実証担当
課長 白木氏

- 社長 服部氏が全社方針を明確化
- 取締役 安藤氏が営業部門の課題認識や考え方を示唆し、課長 白木氏が実務を担当

取組の成果

- 従業員の行動管理データを顧客情報・財務情報(特に管理会計)・マーケティングデータ等と組み合わせることで、グローベンとしてのDXが実現できる方向性が見えてきた
- kintoneの得手不得手が実証を通じて理解できたため、今後社内のデジタル化を進めるときにどのような形で活用していくのか、具体的にイメージできた

ツールによる社内業務のデジタル化の方向性はある程度見えてきたと考えている 今後は蓄積されたデータを活用してDX推進することで、ビジネスを変革していきたい

グローベン株式会社 実証結果【4/4】

今後の課題・目標

- 業務専用ツールおよび基幹システムで業務のデジタル化はある程度できていると考えているが、これらのツール・システムに蓄積されたデータを十分に活用できていないと考えている。
この原因として全社的なデジタル化を俯瞰的にコーディネートできる人材がなかなか確保できなかったことがあるが、今回の取り組みを通じて方向性が見えてきた
- 今後の方向性として、まずはこれら社内に蓄積されたデータを統合管理する仕組みを導入した上で、これらデータを活用してビジネスそのものを変革していくDXに本格的に取り組んでいきたい
- あわせて、基幹システムで対応すべき領域と上記の仕組みで対応すべき領域を整理し、基幹システムリプレース検討へのフィードバックも実施していきたい

(デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

- kintoneのような汎用ツールは、どのように活用するかによって得られる効果が大きく異なってくるが、活用イメージを明確にするのは簡単ではない
- 専用業務ツールはわかりやすく使いやすいことは間違いのないため、汎用ツールでの一元化だけではなく、専用業務ツールとの役割分担による効率的なデジタル化も含めてデジタル化を考えることが望ましいと考える